

練馬区子ども読書活動推進会議(第12期第六回)要録

日時：令和7年7月14日（火） 午後2時から4時まで

場所：光が丘図書館2階視聴覚室

●参加者

出席委員：林座長、木村副座長、熊丸副座長、工藤委員、坪倉委員、
慶野委員、内田委員、降旗委員、中村委員、相澤委員

欠席委員：遠藤委員

事務局：小原光が丘図書館長、
押田子供事業統括係長、同係 和田、塚越
教育指導課 石村指導主事

●議事等

1 開会

2 議題

- (1) 練馬区子ども読書活動推進計画の取り組み状況について
- (2) 乳幼児の電子書籍の利用について

3 その他

4 閉会

【配付資料】

- 資料1 令和7年度「練馬区子ども読書活動推進計画」取組実施状況調査
- 資料2 「練馬区子ども読書活動推進計画」計画指標の達成状況
- 資料3 乳幼児の電子書籍の利用について
- 参考1 保育におけるデジタルメディアに関する研究の展望
- 参考2 デジタルメディア時代における子どもと絵本・本の関わりについて

●会議要録

○座長

本日はご多忙の中、お集まりいただきありがとうございます。

ただいまより、第12期 第六回練馬区子ども読書活動推進会議を開催いたします。

事務局から本日の出席者数、傍聴者数の報告をお願いいたします。

○事務局

本日の欠席委員は1名です。出席者は9名、傍聴者はありません。以上です。

○座長

それでは、次第に沿って議事を進めていきたいと思います。

議題1 練馬区子ども読書活動推進計画の取組状況について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局

練馬区子ども読書活動推進計画の取組状況について、事務局よりご説明いたします。

【資料1について事務局より説明】

資料をご覧ください、特に中高生年代の読書活動の推進に関してご意見を頂戴できれば幸いです。

事務局からは以上です。よろしくお願いいたします。

○座長

中高生年代の読書活動の推進が課題であると報告がありました。ご意見があればお伝えください。その他、取組状況に関してご意見等あればお聞かせください。

○副座長

私に関わっているのは主に小学校になりますが、今年から小中学校図書館の図書館管理員の名称が変わって、学校司書になったと思います。そのことによって子どもたちへの読書の働きかけが具体的にどう変わるのか。過去のことを踏まえて、何か良い方向に前進する計画というのがあるのか聞きたいと思ってまいりました。

○事務局

学校司書の扱いですが、学校図書館管理員の業務委託から、派遣職員になりました。業務内容に関しては大きく変わりませんが、これまでは業務委託ということで、何かお願いがあれば委託会社に依頼しなければならず間接的だったところを、直接相談しながら進められることになったということで、より身近な存在になったと思います。具体的な例で言うと、学

校長の直接指示により学校図書館のガイダンスに学校司書が入って説明したという報告もあり、より学校と司書が連携して密にできるという現状です。

○副座長

学校司書というのは現在 TRC の職員だと思いますが、教育委員会からの派遣だという理解でいいでしょうか。また、学校司書という名前に変わったけれども名称が学校内に定着していない、来てくれるはずだったのに来なかった、毎回別の司書が来る、という話を聞いています。せっかく練馬区が学校の読書推進を進めているにも関わらず、学校司書が定着していないという話を聞いて驚いているので、現状を教えてくださいたいです。

○事務局

学校司書は、練馬区が派遣会社と契約して派遣された職員となります。契約形態が変わったということで、学校から直接指示を出せるようになったため、遠慮なくご指示いただいて構わないと思っております。また、学校司書は、学校規模によって年間の勤務日数が決まっているので、その日数の中で学校に派遣しているという実態です。

○副座長

学校司書が来ていない学校には、ちゃんと2学期になったら来て定着してくださいませうか。来られても毎回別の司書が来るという実態を聞いていると、残念だと思ふところがあります。

○事務局

先ほどお伝えした通り、日数が限られているため、業務に合わせて学校に来てもらう日は決まっています。人員は場合によっては別の人が来る、個別に日程が変わるということもあるかもしれませんが、決められた日数の中で調整されていると思います。区としては、学校司書として今後も推進していきたいと思っていますので、ご意見をいただいて改善しながら進めていきたいと思っております。

○座長

ありがとうございます。限られた日数の中で、子どもたちに均等に読書に触れる機会が引き続きあることを願いたいと思います。ほかに質問等ありますでしょうか。

私から一つ質問させてください。資料2の裏面で、高校生向けの読書推進にかかわる主な事業ということで4つ事例をあげられていて、スキンケア・メイク講座など様々な工夫を凝らしていると感じていますが、参加状況はどうなっているのでしょうか。また、イベントに来た方々に本を借りてもらえるようにするといった工夫等はされているのでしょうか。

○事務局

中高生向けの事業集客はどのイベントでも課題があり、スキンケア・メイク講座を取り上げると、10名の参加がありました。イベントに合わせて資料を展示したところ、貸出は4冊あったと伺っています。その他、文芸講座などやっていますが、参加者は多くないと聞いています。

一方、富士見中学校の図書委員によるスペシャルお話会では、中高生の活躍の場として図書館を活用してもらって、図書委員の生徒にお話会をしてもらうというイベントでしたが、24名の方に参加していただいて好評だったと伺っています。

○委員

スキンケア・メイク講座など民間企業を呼んで行っている例がありますが、そのようなイベントを行う場合、区としての基準などがあるのか知りたいと思いました。

○事務局

講師謝礼としての金額上限はありませんが、公共施設として行うにあたってふさわしいかという基準で判断しており、講師の方の企業の宣伝的なものにならないかどうかという注意はしています。光が丘図書館では、昨年度 JAXA との連携で講座を開催し、半官半民というものもありました。基本的には、それ以上の基準は設けていません。

○委員

同じ資料2の高校年代の読書推進のところで、高校の読書率の調査方法のサンプル数が1校のみに変わったということなのですが、なぜ区内の対象校が1校のみになったのか、ということと、高校生の目標の貸出冊数が現状の倍近くになっており、かなり多いというところでは、もっと対象サンプルを増やさなくてもいいのかと思いました。

○事務局

サンプル数について、この調査は二年に一度東京都が実施するものになります。学校負担軽減のために、抽出校での調査ということになりました。また、調査方法がタブレットを使用して回答するようになり調査項目も変わったと聞いております。今後も東京都の調査の数値のみを使用するのであれば、抽出校のみになるかと思います。

○委員

練馬区の読書アンケートは、毎年行うのでしょうか。

○事務局

昨年度に行った区のアンケートは、計画の策定に際して初めて行ったもので、意見反映のために高校まで対象を広げて実施したというところです。

○座長

学校の負担軽減のために調査方法が変わったということで、どこの学校も人手がたりないという厳しさも垣間見えますが、こちらは参考値ということです。ほかの委員のみなさまどうでしょうか。

○委員

冊数だけを考えると、子どもが減少しているので、高校生の数自体がどれくらいなのかというところも冊数と関係してくると思います。近隣の小中学校・特別支援は減っている感じはしません。冊数だけを目安にすると、子どもの数が減ったらどんどん減っていくものなので、読書率というところでもっと正確な数字が取れるといいと思いました。

○副座長

もうそろそろ夏休みになるので、読書指導を学校の先生も考えていると思いますし、小学校の図書館開放でもイベントを計画したりしています。中学高校ではどのような取り組みをしているのかわかりませんが、冊数や読書率という数字が、読書の質と一致するのかということを考える機会がありました。本質的なところを問い詰めていくと、ひとりひとりの読書の質はわからないと思ひまして、読書って数字なのか、本人だけが知っている質なのかと思うと、大人はその中身を見届けるといことが読書支援になると思っています。

○副座長

資料2の全国平均と練馬区の読書率の比較というところを見て、全国で言うで一貫して読書率が下がっている中、練馬区は減少の幅がかなり少ないので、練馬区はすごいと思っています。中学高校では余暇の時間が減っていく中、練馬区はなぜ維持できているのか、その要因として分析されているものはありますでしょうか。また、中学高校と上がっていく中で読書から離れていかにする工夫があるのかということをお教えいただきたいです。また関連して、これはその年の小中高の調査だと思うんですが、小学生がいずれ中、高と進んでいく中でどのような要因で読書を続けていけるのか、もしくは離れていくのかという縦の流れでの調査を行っているのか、これから行う可能性があるかということが知りたいと思います。

○事務局

子どもたちが中学・高校に上がる中で読書から離れていかにするためにどのようにしていけばいいのかというところは図書館としても模索しているところで、残念ながら適切な要因分析は行っていないところです。アンケートの結果で、練馬区の数字が平均より高くはありますが、小学生が中学生に移り変わると下がっていくというのは仕方ない流れかなと思ってみえています。高校生の読書率は、大人の読書率とほぼ同じということで言えば、高校生の生活がほぼ社会人と同じだということにも見て取れます。スマホが手元にある、部活

があり忙しくなる、というところでは、私どもがいくらこんな面白い本があるよと言っても引き留めることができていないというところが現実だと思っております。

○座長

このあたりで次の議題に移りたいと思います。2 乳幼児の電子書籍の利用について事務局から説明をお願いします。

○事務局

【資料3、参考資料についての説明】

資料の内容等について、ご意見をいただければと思います。

○座長

事務局から説明がありました、乳幼児の電子書籍の利用についてご意見はありますでしょうか。また、現在の電子書籍の導入状況についても説明がありました。こちらについても、ご意見があれば教えていただきたいと思います。

○副座長

今日この話をしていただいたのは、おそらく文庫連からパブリックコメントで乳幼児の電子書籍の貸出目標数値についてどのように決めたのかという内容を提出したからだと思います。文庫連の会議では、乳幼児の電子書籍とのかかわりはあまり芳しくないという立場の者もいるので、図書館の方々がそのあたりのことをどう考えて設定したのか知りたい思い、意見を出したというところがあります。今、この資料を出していただいて持ち帰りと思っていますが、改めて目標数値をどのように設定したのかということをお話しいただけたらと思います。

○事務局

第五次計画の32ページに、目標指標があります。この中の区立図書館による乳幼児への電子図書館貸出件数として、目標値を600件とさせていただいています。この根拠としては、紙の本の貸出冊数の0.1%としています。近隣区の電子図書館の貸出件数を検討したところ、だいたい0.1～0.3%くらいで、紙のほうが貸し出しは多くて電子は普及していないという状況でした。中高生になるとまた状況は変わりますが、乳幼児ではまだ紙のほうが好ましいという傾向がありましたので、今回は0.1%とさせていただきました。ただ、積極的に電子書籍で乳幼児に読書を推進したいというわけではなく、おでかけのときや障害があるなどへ、アクセシブルな書籍として活用していただきたいという意図で設定させていただいたところです。

○副座長

併せて、中高生の電子書籍の貸出冊数の目標値が低いのではないかという意見もありました。それも、どのように設定したのか教えていただきたいです。

○事務局

中高生の貸出件数については、同時に多くの方が閲覧できる読み放題パックの閲覧数は入っていないので、紙の書籍と同じく、一人に貸し出ししていると、ほかの方は借りられないという状態での件数になります。その中で、乳幼児よりは電子書籍の利用はあると見込んで、紙の本の0.4%という数字としています。まだ電子図書館が始まって間もない中で、どのくらいの数値が妥当なのか、なかなか判断がつかない状況であるため、近隣の図書館の貸出冊数をの実態を参考として設定させていただいています。

○副座長

他の委員にお聞きしたいのですが、お子さんは電子書籍をどのくらい読んでいるものでしょうか。

○委員

娘は、電子書籍は読んでいません。全部紙です。人によるとと思いますが、電子書籍は目が疲れるといいます。学校でもタブレットを使ったり、電車ではスマホを使ったりという中で、読書をする際には紙のほうが良いといって紙で読んでいます。

○委員

息子は科学系の学校で、普段から探究活動がさかんで、授業は全部タブレットで行い、本を読む時間はなかなかありませんが、どうしたことか最近電車でスマホ見るのがつまらないといって文庫本を持って電車で本を読んでいるというので、驚いています。

○委員

娘の学校は、リーディングマラソンといって、毎日洋書を読まなければならないのですが、紙のほうが頭に入りやすいのか、洋書を読むのにも紙の本を読んでいます。

○委員

逆に、リスニングの方は先生からオーディオブックを勧められているそうで、スマホにオーディオブックを入れています。

○座長

文庫本は本当に便利だと思います。洋書のペーパーバックももっと大きいし、韓国でも日本の文庫本ほど小さい本はあまりないと思います。電車でも、文庫本を持っている若い方もいらっしゃると思います。先ほどの中高生の話と関連でも、思ったことがあれば教えてください。

さい。本を読むことよりも、親子で一緒に何かをするという目的としては、電子書籍より紙のほうがやりやすいという実感もあるかなと思います。

○委員

今の話を聞いていて、ブックスタートでは、デジタルメディアの話をしてもいいと思いました。親御さんが、周りの目を気にして、本当は使いたくないけれどどうしても忙しい時に子どもにスマホを与えるということもあるかなと思います。また、親御さんがデジタルメディアの使い方に関して悩んでいる。親御さんが依存症で離れられない、という可能性も考えると、ブックスタートの中でデジタルメディアの相談窓口の話をするとか、そういったことがあってもいいのかなと思いました。

○座長

幼児向けのデジタルコンテンツというのはどういう大きさなんでしょう。親子で共有するときにはタブレットなのか。デジタル絵本というのは借りた側はどのようなサイズで見るのでしょうか。

○事務局

利用者のもっている端末次第となります。最近はテレビに繋げて見られるという話も聞いていますが、利用者がどのように使用しているかはわかりません。小中学生では、学校で使っているタブレットの大きさというのも多くあると思います。

○委員

5歳の子がいますが、電子書籍は利用したことはありませんでした。目のことが一番気になるというのと、電子書籍は誰かが読んでくれるわけではなくて親が持ちながら読み進めていくということになります。そのうちテレビと混同してくるのではないかなと思ったりします。絵本を読むということもそうですが、本を触る、重さを知る、時には食べる、ということをしてしながら本というものを覚えていくと思っているので、子どもに電子書籍を読ませるという発想がありませんでした。普段フルタイムで仕事をしながら子育てをしていると、おでかけの時こそ子どもとしゃべる時間と思っているので、出かけるときに本を持っていくこともないし、子どもと会話をする時間だと思っています。一つのいい媒体とは思いますが、どういう場面で使ったらいいのかというのを想像できていないです。上の子は小学生ですが、親が読み聞かせをするという課題でも電子書籍は出てきません。まだまだ、乳幼児の親にとっても電子書籍は身近な存在ではないのではないかなと思います。

○座長

確かにタブレット自体が重くて持っていくのが大変ですね。私も子どもが小さい時は子どものためのペーパーバッグが大助かりでした。デバイスの重さもこれから変わっていくか

と思いますが、使い勝手を考えると紙のいいところもありますね。

○副座長

こどもと本のひろばでは電子書籍についてはどんな評判になっていますか。お母さんたちは電子書籍に関しては何か思いがあったりしますか。

○委員

特に親御さんに聞いたことはありませんが、乳幼児の絵本に関してはデジタルに向いているのかなとは思っています。なぜかというと、乳幼児の絵本はあつという間に読めて、何冊も読みたいというお子さんもいらっしゃいます。それを借りて、また返すという作業が大変という方もいらっしゃるので、電子で借りることによって負担は減るのかなと思います。こどもと本のひろばでは、タブレットを借りて、お母さんたちに電子書籍を使ってもらうことを検討しています。

○委員

図書館が遠い方にとっては、たしかに図書館に行くのが大変と聞いたので、電子書籍で借りられるというのはいいいものなのかと思いました。

○事務局

子どもの実態を見たときに、不登校の子、発達障害の子や日本語を母語としていない子どもなど、様々な子どもにとってはデジタルコンテンツが有効になると思っています。

○座長

特別支援学校での利用というのはどうなっていますか。

○委員

本校では、タブレットの支給はしていないので、子どもたちがタブレットを使って何かを読むということはしていません。年齢が上がってくると、調べ学習ができるようになってくるので、電子書籍で調べたりということを教えたりしています。学習障害の方にとっては、電子書籍のほうを読みやすかったり理解しやすかったりということが実際にあります。一方で、見開きで開いた本の良さというのは電子書籍では味わえないと思います。どちらの良さもありますが、子どもには様々な経験をしてほしいと思います。

○委員

幼稚園として、タブレットは利用していません。お迎えに来たお母さんたちを見ていると、自転車に子どもをのせてすぐにスマホを渡して見せているお母さんは多いですが、本としては紙のものを読ませていると思います。子どもにスマホやタブレットを渡しているとき

は、静かにしてほしい時にこれを見てなさいという使い方なのかなと思います。親子で楽しむというところでは、まだ紙の本が主流かと思います。

○委員

小学校では、電子書籍の利用は全然まだこれからです。中学校では先に進んでいます、小学校はこの夏にWi-Fiが整備されて使えるようになります。昨年度、電子書籍の読み放題パックの選書をしました。Wi-Fiが整備されれば、みんなで同時に見られるということで、調べ学習の本を中心に導入しました。学校で支給されているタブレット用に一人一人のアカウントが配られるようになり、図書館に自分で利用登録していなくても、電子書籍が読めるようになるので、全員が使えるようになっていくのはこの夏以降になると思います。

○座長

ありがとうございます。副座長には、今回資料としてご用意いただいた論文をご紹介いただいたとのことですが、子どもの発達支援の関係から何か考えられたことはありますか。

○副座長

今回資料で出していただいた論文は、ちょっと古い研究ではありますが、企業との利害がなさそうだったので選ばせていただきました。いろいろな研究などを見てきた中では、付き合い方なのかな思っております。デジタルの絵本や電子書籍が普及しても、紙媒体がなくなることはなさそうだと。これまでの紙の書籍にプラスアルファで「こんな使い方もできる」というメリットはあって、使い方をどのように発信していくかというのが、行政側の役割になってくるかもしれない。まだ電子書籍は市民権を得ていないというところがありますし、例えばレストランで料理が来るのを待ってる間に子どもにスマホを見せていると、「あんなに小さい子にスマホを見せて」と思われてしまい気まずい。スマホを使うのを躊躇するということもあるかと思います。市民権を得ていく中で浸透していき、安心して使えるようになっていくと思います。行政機関である図書館が「こういう使い方をするといいですよ」と使い方を発信することで、「図書館がこう言っているのであれば別に悪いことじゃないのかな」という安心感につながるかと思います。

発達のことでいうと、紙の本とタブレットの違いでは、枠があるかないかということ。発達の子は目で見るのが得意だとよく言われますが、そうでないこともあって、紙の本だと背景が混ざって見にくい、フレームがあると見やすいということがあり、タブレットのほうが見やすいという子もいます。なので、いろいろなニーズに幅広く対応していくという中で選択肢は多い方がいいだろうと思います。何をとりかというのは、シーンごとに違うと思いますが、そういう意味で電子書籍の生きる道ということもあると思います。

3 その他

○事務局

12期の子ども読書活動推進会議については、任期が10月末までとなり、今回の会議で最後となります。つきましては、ご挨拶を頂戴したく思っております。

○副座長

初めてこの会議に参加し、改めて子どもの発達と読書ということについて見直すことができて個人の勉強にもなりました。この会議の中では、声を出せる図書館という話が進んでいきそうということが、障害があるお子さんのご家族にも図書館の門戸が開かれているというところで大きな一歩だったのではないかと思います。こうして検討を進めていく中で、スペシャルニーズへの対応が進んでいくといいなと願っております。ありがとうございます。

○委員

今回は委員に選んでいただいて勉強になりましたし、今後の図書館運営に参考になります。印象的だったのが、声を出してもいい図書館です。海外では聞いたことがありますが、日本ではまだ静かにしていないといけないという図書館の状況ですので、今後はそういう場所を設けて、開かれた図書館になっていくんだろうなという期待を込めて、今後の運営に生かしていきたいと思います。ありがとうございました。

○委員

娘の小学校で、コロナ前ぶりに本の探検ラリーの開催があり、嬉しかったです。今期は、オーディオブックや電子図書館が導入され、ホームページが変わり、図書館が発展していくタイミングでこの会議に参加できてよかったと思います。これからもどんどん発展していけばいいのかなと感じました。ありがとうございました。

○委員

第五次計画が、私たちの話し合いの内容がどんどん反映されていくということに感激しました。他の自治体の読書活動推進計画の報告会に行ったときに、具体的な施策が聞けずにショックだったことがあります。練馬区ではこの会議で話したことがどんどん反映されていて、読書アンケートが最初は5校で行うと聞いていたのが9000人ほど回答していただけたということはすごいことだと思いました。おしゃべりタイムについて、中2や高校生が、静かな空間で読書することよりも、おしゃべりできるスペースがあるといいという回答のほうが多いということにびっくりしましたし、それが計画の中に反映されたことも嬉しく思いますし、これからどうなっていくのか見守っていききたいと思います。ありがとうございました。

○委員

2期続けさせていただいて、自分が知らなかったことや、参考になることがとても多かったと思っています。もともと下の子が1歳のときに委員になって、図書館に連れてくることすら憚られるという状況の中で、どうやって連れて行こうかなと考えたり、予約した本をただ借りて帰るだけということもありましたが、声が出せる図書館というところが叶っていくというのは嬉しいことだと思います。ありがとうございました。

○委員

子どもたちが行きたい図書館が近くにあるというのはありがたいことだと思います。障害がある子は本が読めませんが、居場所の一つとして図書館があるといいなと思いますし、私自身本を読むことが大好きなので、今後も本を好きになる子が増えていくといいなと思っています。ありがとうございました。

○委員

初めてこちらに参加させていただいて、まちライブラリーの話を知ったので、幼稚園としても何かできないかと考えて、クリスマスの関係の本の貸出を保護者と子どもたちに対してやってみました。とても喜んでいただけて、小さい取り組みではあってもやってみてよかったと感じました。子どもたちは本当に絵本が大好きで、毎日帰る前に担任が読み聞かせをすると喜んで聞いてくれます。今日のお話の、デジタル絵本というのも、新たなチャレンジとして保育の中で取り入れていくことができるかなと思います。どんどん子どもたちに楽しい経験をさせてあげたいなと思います。ありがとうございました。

○委員

小学校ではタブレットが一人一台あるので、どんどん活用していきたいです。デジタル教科書が一般化しているなかで、子どもたちは何の違和感もなく電子書籍を使っていけるようになるんだろうなと思っています。私は読書感想文コンクールの運営をしていますが、昨年度は全小学校が参加してくれました。今年度も9月に提出の時期が来ますが、先生方にどんどん広めていき、読書活動が盛んになるようにしていきたいと思っています。この会では本当に様々なことを学ばせていただきました。ありがとうございました。

○副座長

これで4期目くらいの参加になりますが、今期はとても話しやすい回と思いました。座長のリードがとても楽しくて、私たちはその波に乗って話ができ、本当によかったと思います。図書館長を含め、事務局の皆様と委員がやりとりできているのが、とてもよかったと思っています。ただ話をするだけでなく、事務局の方々が受け止めてくださって、やりとりできることでいい会になっていると思います。区報に次の委員の公募がありましたが、区民委員の方々はもう一回応募して下さったらいいなと思っています。

○座長

あつという間だったと思いますが、委員の皆様、事務局の皆様にお手伝いいただき、なんとか無事に終了することができました。声が出せる図書館と同時に、声が出せる会議もできたということで、引き続き皆様と子どもたちが読書に親しんでいけるように力をあわせて学びあっていければと思っています。本当にありがとうございました。

○事務局

本当にご意見たくさん頂戴しまして、ありがとうございました。第五次計画を作るにあたりましては、皆様のご意見を少しでも生かしていきたいという事務局の考えが反映できたかなと思っています。今日お話いただいた6年度までの事業に関しては、コロナで目標指標が下がってしまい、元に戻すというところで精いっぱいだったと思っています。今後は、第五次計画が順調に進んでいけるように頑張っていきたいと考えています。もしよろしければ、身近なところでも五次計画の推進をしていただけるとありがたいと思っています。さきほど委員からもありましたとおり、13期の委員募集をしておりますので、ぜひご応募いただけますと幸いです。事務局としては至らないところも多くご迷惑をおかけしましたが、座長と委員の皆様のおかげで12期の会議を無事に進めることができ、ありがたく思っております。

○座長

それでは、本日の議題は以上になります。

本日の会議要録については、事務局が取りまとめたのち、各委員の確認を経て、練馬区ホームページ等で公開いたします。最後に事務局から連絡事項をお願いいたします。

○事務局

繰り返しになりますが、現在13期の区民委員を募集しておりますので、ぜひまたお会いできるのを楽しみにしております。13期の第一回の会議につきましては、11月の開催を予定しております。正式な日程が決まり次第、新委員の方には、開催通知を送付いたしますので、よろしくお願いいたします。

○座長

それでは、以上で第12期第6回練馬区子ども読書活動推進会議を終了いたします。ありがとうございました。